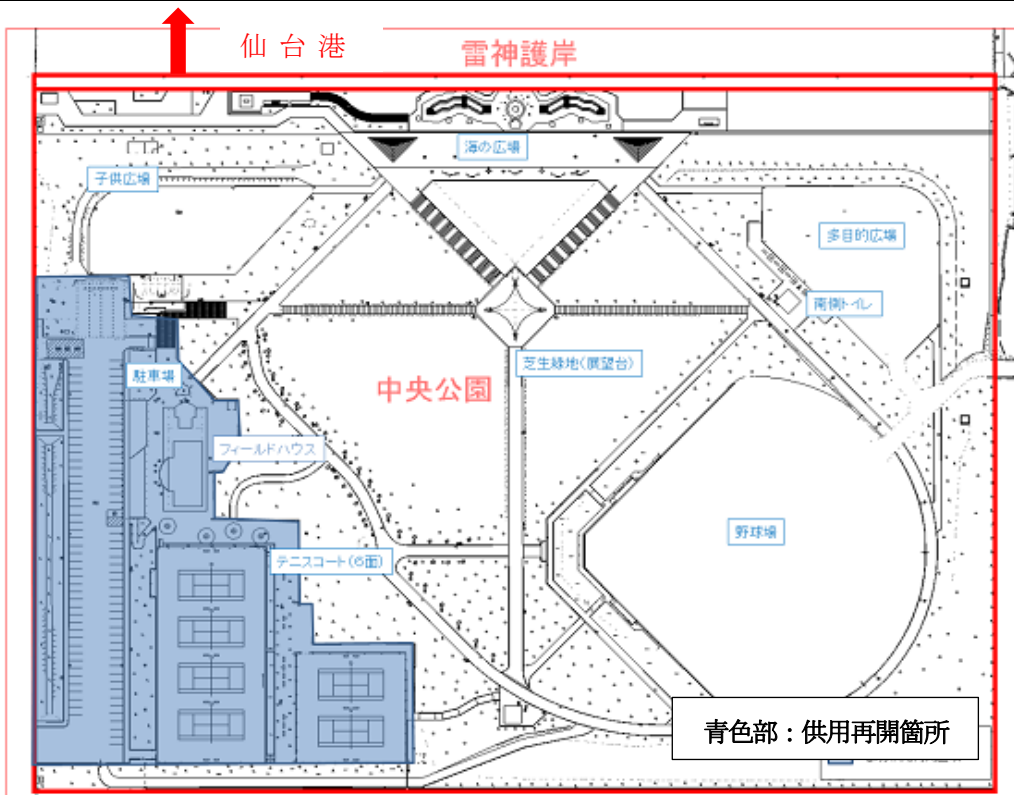




# 仙台塩釜港復興だより 第14号

## — 港湾は人の心も結んでいます —

スリーエム仙台港パーク（仙台塩釜港仙台港区中央公園）一部供用再開しました。



●中央公園の全体図

震災により閉園していた「仙台塩釜港仙台港区中央公園」は「スリーエム仙台港パーク」と名称を改め、平成26年4月29日から一部施設の供用を再開しました。

今回供用を再開した施設は、①テニスコート（6面）、②駐車場、③フィールドハウス（管理棟）となります。

現在、港の憩いの場として、広く県民に利用していただけよう、8月中の全面供用再開へ向けて、鋭意復旧工事に取り組んでおります。

なお、現在テニスコートの利用にあたっては、公園の指定管理者である「株式会社東北ダイケン」が電話にて事前予約を受け付けております。

受付時間、電話番号は右記のとおりです。皆様のご利用をお待ちいたしております。



●供用が再開されたテニスコート

受付時間：午前9時から午後5時まで  
電話番号：090-6451-3887

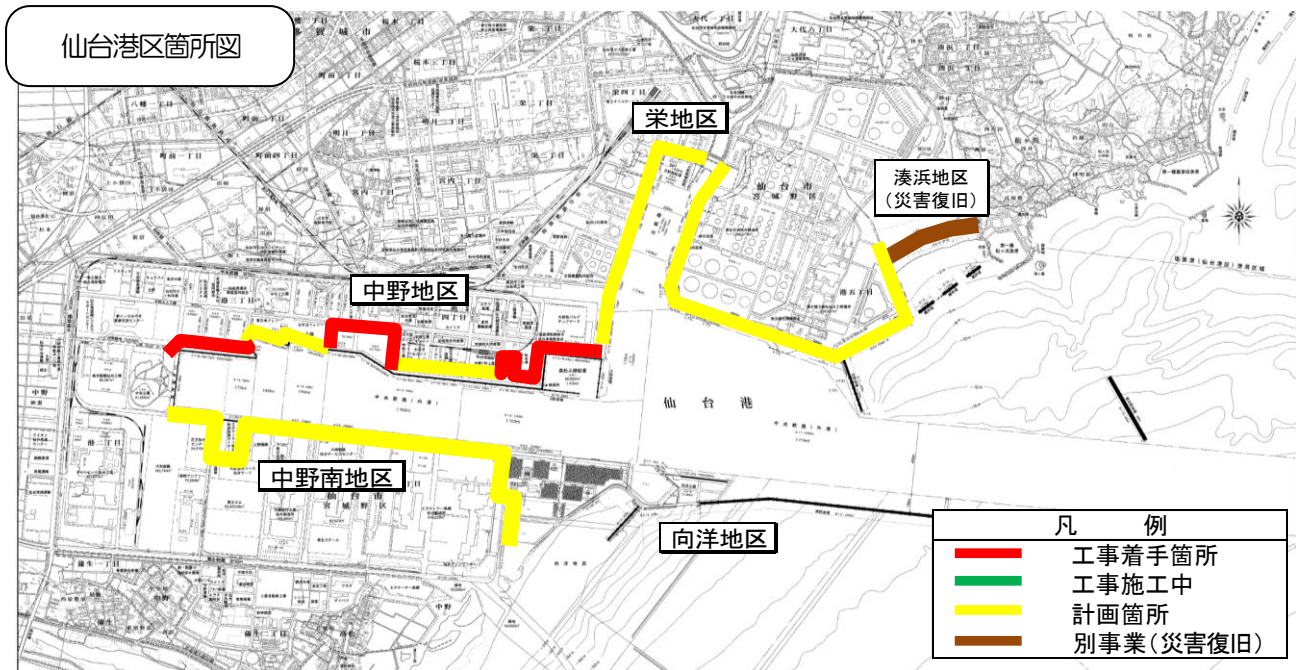
## 仙台港区防潮堤整備工事が始まります！

宮城県仙台塩釜港湾事務所では現在、防潮堤が未整備だった箇所について、復興事業として防潮堤の整備を進めており、設計・協議が進み今年度より中野地区の工事に着手することとなりました。

仙台港区の防潮堤は、荷捌き用地と隣接しているため、出来るだけ物流に支障を来さないよう、防潮堤断面を最小限にできるコンクリート擁壁形式を採用しました。

今後整備する箇所についても、関係者の皆様と協議を重ねながら、順次工事を実施してまいります。

また、災害復旧工事についても、一日でも早い復旧を目指して取り組んでまいります。



●仙台港区における防潮堤の工事予定計画図



●中央公園展望台から見た中野地区の様子



## 新規コンテナ定期航路が就航しました！

平成26年4月18日、興亜海運株式会社及び高麗海運株式会社の共同で、東北唯一の国際拠点港湾である仙台塩釜港とアジアのハブ港である釜山港、釜山新港をダイレクトに結ぶ航路が就航しました。また、5月22日にも南星海運株式会社で、同じく釜山港、釜山新港を結ぶ航路が就航しました。

これにより仙台塩釜港の外貿コンテナ航路は北米航路（1航路週1便）、中国／韓国航路（3航路週3便）及び韓国航路（2航路週2便）となり、高砂コンテナヤードでは震災前と同様の活気を取り戻しております。

航路が増えることによって、海上輸送における選択肢が広がるとともに輸送頻度が上がることでより輸出入の利便性が増し、“使い勝手”が更に向上します。東北・宮城に立地する荷主企業様にとって

は、物流コストの削減、国際競争力の強化に資するものになると期待されます。



●4月18日に入港したサニーセダー歓迎セレモニーの様子

## 岩沼西小学校の3年生が見学にきました！

平成26年6月17日と18日に岩沼市立岩沼西小学校3年生184名が仙台塩釜港について学習しました。

当日は高砂コンテナターミナル管理棟屋上から、船や荷役機械、コンテナの運搬・積み込みなど、普段見ることの出来ない様子に大変感動していました。

見学時間は30分程度と短い時間でしたが、色々なことを質問してくれ、熱心にメモを取りながら説明を聞いてくれました。



●熱心に説明を聞く岩沼西小学校の3年生

## 平成26年度総合防災訓練を実施しました

6月12日に平成26年度総合防災訓練を実施しました。

当日は東日本大震災並みの地震及び地震に伴い大津波が発生した状況を主に想定し、情報伝達訓練を行いました。

平時から訓練を実施することにより、災害の規模を問わず迅速かつ適切な対応を行えるよう、職員一同真剣に訓練に臨みました。



●実施された訓練の風景

---

 仙台塩釜港で働く応援職員のみなさん
 

---

震災から三年が経過した現在もまだまだ復旧・復興に向けた取り組みが行われています。仙台塩釜港でも復旧・復興に向け、他県からの応援職員の方々にご協力いただいています。

今回号から共に働く応援職員の方々を紹介していきます。第1回目は、東京都からの応援職員「神子 和裕さん」と大分県からの応援職員「木寺 寛さん」です。

**「神子 和裕さん」(東京都応援職員)**

「より早く、みなとの復興を！」都庁からこちら仙台塩釜港湾事務所に派遣されました神子(かみこ)です。

都庁では、現在、20名程度の職員を宮城県に派遣し、用地補償業務、道路から下水、港湾施設までの広範囲に及ぶ災害復旧、及び中小企業支援など、それぞれの専門分野に分かれて、頑張っております。

私の都庁での職歴は、港湾局に20年間所属し、岸壁や護岸、防潮堤など港づくりに従事して参りましたが、離島での大型台風、災害復旧経験はあったものの、これだけの規模の被災は初めて。復興の最前線での業務の困難さを痛感しております。

このような状況であったにも関わらず、県職員、建設関係者などの地道な努力があって、岸壁や臨港道路の港湾施設については、順調に災害復旧事業が進んでいるとの事です。一方で防潮堤などの海岸保全施設の災害復旧は、防潮堤高さの議論が尽きず、また、背後地の住民や事業者との調整も難しいとあって、復旧が思うように進まず歯がゆい状況のようです。

これからは、派遣職員としての真価が問われると自覚し、「より早く、みなとの復興を！」に貢献を果たせるよう、粘り強く課題に取り組んで参ります。



●施工現場での立ち会い写真

**「木寺 寛さん」(大分県応援職員)**

4月1日付で、大分県から派遣職員として参りました木寺と申します。

現在私は、防潮堤や防波堤、船揚場などのおなじみの港湾施設をはじめ、特別名勝松島や緑地公園、コンテナターミナルの復旧など幅広い業務を担当させていただいております。

こちらの業務に携わってみて、一番驚いたのは被災範囲の広さです。自分が担当している地区内に、大型の構造物はありませんが、壊れた施設数や延長をみると、これまで大分県で担当していた業務とは桁が違い、地震の規模の大きさに圧倒されてしまいます。

私も微力ではありますが、宮城県の一日も早い復興のために力になれるよう精一杯がんばりますので、一年間よろしく願いいたします。



●施工を担当する松島港区浪打浜の様子

---

**編集事務局**


---

宮城県仙台塩釜港湾事務所 編集委員

〒983-0001

仙台市宮城野区港三丁目1-3 アクセル5階

TEL 022-254-3132

FAX 022-254-3136

E-mail: [sdsgkowns@pref.miyagi.jp](mailto:sdsgkowns@pref.miyagi.jp)